

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 名古屋大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(II)))

ASEAN地域発展のための次世代国際協カリーダー養成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

グローバル化による経済環境や国際協力活動の変化に対応するため、開発援助とビジネスの間をつなぐ視点を備え、ASEAN地域と日本双方の経済・法・政治・社会・文化の共通理解をもった次世代国際協カリーダーを養成する。

【構想の概要】

名古屋大学とASEANの7大学がコンソーシアムを形成し、英語によるコースワークとフィールドワーク・インターンシップを組み合わせたカリキュラムを開発する。SEND該当者は日本語指導支援の他、日本の法制度や文化について紹介活動を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質保証に関する組織的整備

国際機関・産業界等からの外部評価委員を招聘し、第3回評価・質保証委員会を開催し、平成26年度中に各加盟校と実施してきた二大学間協議の内容について総括するとともに、単位互換等に関する議論及び質疑応答を行った。

○ 単位の相互認定制度における情報収集及び構築

加盟校との間でシラバス等の必要情報を共有し、また指導教員同士の事前協議及び第1回、2回評価・質保証委員会での議論をもとに、平成25年度の長期派遣・受入れ留学生とともに100%単位互換が実現した。翌26年度の単位互換もスムーズに実施される見通しである。

○ 共同教育科目の新規開講

学部生対象と大学院生対象の共同教育科目2科目を新規開設した。政治・経済・法・農・開発等の諸分野を横断的に学習できるようオムニバス形式を採用し、本プログラム参加部局の全学生が履修できるよう開講した。

(短期受入れプログラムでの企業研修の様子)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(SENDで空手について紹介する学生)



○ 中部産業のモノづくりを通じた人材育成

企業の協力を得て民間連携プログラムを実施し、座学により習得した知識をもとに、製造業の本質、マーケティング等を学習させ複合的に知識の習得を可能にしている。平成25年度の実施と共に加盟校より高く評価され、平成26年度は受入れ学生数が増加した。

○ SENDによる日本語教育支援・日本文化紹介活動

従来は加盟校に設置している名古屋大学日本法教育研究センターを始めとした教育機関が主なSEND活動の場であったが、平成26年度はNGOで日本語指導をするなど、活動の場が広がった。また、SEND長期派遣生の海外インターンシップ受入れ先の開拓も積極的に進め、法律関係機関のみならず、NGOや日系総合商社でも可能となった。

○ ASEANの経済・社会・文化への理解

派遣先では、企業および行政機関訪問のみならず、NGO・NPO訪問や農村部でのフィールドワークを通して様々な立場の人々から直接話を聞くことによって、多様な側面からASEANの経済、社会、文化への理解を深めた。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成25年度までに派遣開始した大学に加え、平成26年度はシンガポール国立大学への長期派遣が開始された。また各短期派遣プログラムが学生の間に浸透し、参加希望者が大幅に増加した。

○ 外国人留学生の受入れ

産学連携によるインターンシップの成果が加盟校間に共有され、受入れ留学生数は平成25年度比2.5倍となった。また、本補助金による支援なしにJASSO奨学金の利用のみでプログラムに参加する学生や、全額私費で参加する学生の受入れも開始した。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	11	56	63	52	52
学生の受入	0	26	70	48	48

(注)H24-H26は実績、H27以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入れを促進するための環境整備

○ 派遣前準備教育

派遣前の学生には、各部局で短・長期プログラム向けに、それぞれに合わせた事前研修・講義が実施されている。また危機管理研修は全学的に開催されている研修に参加するなど、大学全体で派遣留学生をサポートする仕組みを整備している。

○ 留学生への教育支援・生活支援

本プログラムに参加する留学生全員に対して、大学の宿泊施設を提供した。また長期留学生には各1名のチューターを配置し、渡日直後の手続きを始めとする生活支援及び日本語学習等の学習支援を行った。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

○ 学生フォーラムの開催および年次報告書の発行(言語:英語)

平成27年3月20日、第2回学生フォーラムを開催した。平成26年度は学生によるプレゼンテーションや帰国した留学生によるビデオプレゼンテーションに加えて、長期派遣生と長期受入れ留学生によるパネルディスカッションを実施し、日本とASEAN各国での留學生活の比較やプログラムに対する学生の提言など、充実した内容のフォーラムとなった。当フォーラムは公開フォーラムとなっており、プログラム広報の役割も兼ねている。また、年次報告書の発行等により情報発信を行っている。